

どうすれば
よかつたか？

監督が市川に
やってくる！

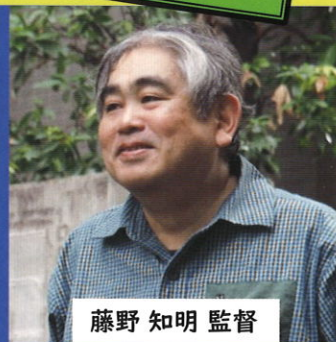
緊急特別企画

対談

藤野 知明 (本映画監督)

朝比奈 ミカ (市川市よりそい支援事業
がじゅまる+総合センター長)

伊藤 順一郎 (メンタルヘルス診療所 しっぽふぁーれ院長)



藤野 知明 監督

2/7(土)

2026年

10:00~12:50 (開場 9:30)

映画 10:00~11:41

対談 11:50~12:50

会場 千葉県市川市八幡4丁目2番1号

全日警ホール (市川市八幡市民会館)

1階ホール(326人収容)

アクセス: JR総武線本八幡駅、京成八幡駅から徒歩5分~8分。
駐車場に限りがありますので公共交通機関でお越しください。

料金・お申込方法

料金 一人 1,500円 (映画・対談含む)

締切 2月5日(木)まで

申込みURL <https://act27.peatix.com>

スマホの方は、QRコードから



後援

- ・市川市
- ・心の健康を守る会 家族会 松の木会
- ・千葉精神医療人権センター
- ・特定非営利活動法人 ほっとハート
- ・社会福祉法人 サンワーク
- ・NPO法人 NECST
- ・認定特定非営利活動法人 地域精神保健福祉機構
- ・市川市よりそい支援事業がじゅまる+

主催

特定非営利活動法人リカバリーサポートセンターACTIPS 訪問看護ステーションACT-J・医療法人社団こころら メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ

姉の病気を認めないことで成立する「家族」のあり方。おそろく多くの機能不全家族にも通じる矛盾であり、その矛盾をはつきりとカメラに残したドキュメンタリーである。

インベカナリ★

写真家、ノンフィクション作家

映像はふるえている。

目もくらむ年月を重ねたままならない日々と家族が、そこにうつっている。求めることができなかった助けの音が、問いのかたちとなって社会に手渡された。

映像を観たいま「あなたたちはこうすればよかった」ではなく「わたしたちはどうすればよかったか」という思いが離れない。

永井玲衣

哲学者

カメラを持った男 弟であり息子でもある彼は、

「撮る」こととでいかに自らの家族と、

そして世界と切り結ぼうとしたのか。

記録されることがなかったかもしれない場所で、

「ともちゃん」と呼ばれる男から、

人間探究の目が立ち上がってくる。

我々はこの目の発動を映画と名付けているのではないか。

カメラの前で老いた父親と真つ直ぐ向き合う藤野知明監督の姿が、この映画の決定的な余韻として残っている。

森直人

映画評論家

我が家の25年は

統合失調症の対応の失敗例です。

どうすればよかったか？

このタイトルは私への問い、両親への問い、そして観客に考えてほしい問いです。

藤野知明(監督)

家族という他者との20年にわたる対話の記録

面倒見がよく、絵がうまくて優秀な8歳ちがいの姉。両親の影響から医師を志し、医学部に進学した彼女がある日突然、事実とは思えないことを叫び出した。統合失調症が疑われたが、医師で研究者でもある父と母はそれを認めず、精神科の受診から姉を遠ざけた。その判断に疑問を感じた弟の藤野知明(監督)は、両親に説得を試みるも解決には至らず、わだかまりを抱えながら実家を離れた。

このままでは何も残らない——姉が発症したと思われる日から18年後、映像制作を学んだ藤野は帰省ごとに家族の姿を記録しはじめる。一家そろっての外食や食卓の風景にカメラを向けながら両親の話に耳を傾け、姉に声をかけつつけるが、状況はますます悪化。両親は玄関に鎖と南京錠をかけて姉を閉じ込めるようになり……。

20年にわたってカメラを通して家族との対話を重ね、社会から隔たれた家の中と姉の姿を記録した本作。「どうすればよかったか？」正解のない問いはスクリーンを越え、私たちの奥底に容赦なく響きつつける。

分かりあえなさとともに生きる、

すべての人へ向けた

破格のドキュメンタリー。



dosureba.com X dosureba_film



ACT-J



お問合せ

特定非営利活動法人リカバリーサポートセンターACTIPS 訪問看護ステーションACT-J

担当: 齊藤和彦

千葉県市川市菅野5-11-16

連絡先メール actips@actips.jp